

平成22年10月8日

5年生保護者の皆様へ

広島市立千田小学校
校長 桧山 秀子

「基礎・基本」定着状況調査の結果について

1. 調査のねらい

この調査は、以下のようなねらいのもと、6月8日に県内一斉(調査実施校数535校 集計対象者数25375名)に実施されました。

学習指導要領に示されている目標や内容に基づき、「読み・書き・計算」等の基礎的な内容の定着状況を把握する。

思考力・判断力・表現力などの定着状況を把握する。

児童の生活や学習に関する意識や実態を把握する。

以上のことを通して、各学校が自校の課題を明確にし、指導内容や指導方法の改善・充実を図る。

2. 調査対象学年と教科

5年生を対象に、国語・算数について4年生までの定着状況の調査と、生活と学習に対する意識などのアンケート調査が行われました。

3. 教科の通過率について

		広島県平均 (%)	広島市平均 (%)	千田小平均 (%)
国語	教科全体	82.3	81.0	88.6
	聞くこと	73.2	70.8	67.8
	書くこと	87.4	86.3	94.8
	読むこと	82.6	82.7	90.1
	言語事項	83.3	81.6	92.4
算数	教科全体	79.0	77.6	87.4
	数と計算	87.5	86.4	94.0
	量と測定	75.2	72.2	85.6
	図形	71.1	70.0	83.4
	数量関係	77.2	76.4	83.6

国語について

教科全体においては、市・県平均より高い通過率（点数）でした。

「読むこと」の領域では市・県平均を大きく上回っているものの、「聞くこと」の領域では、国語の中で唯一市・県平均を下回っていました。本校では、朝の帯学習に音読や朝読書を行っています。また、国語の学習だけでなく、各教科の学習においても、文章や資料を読み取ったり、友達の意見を聞き自分の考えを深めたりする学習に力を入れています。これらの取り組みは「読むこと」や「聞くこと」の力を伸ばしていると考えられます。しかし、今回の調査では、全体的によく聞けていても、要点を押さえて聞けていなかったり、答えは分かっているものの、設問に対して不十分な答え方だったりして点数を落とす児童が多かったように思います。これからは大事な要点をメモにとりながら聞くことを通して、話の要点を押さえながら聞くことができるように指導していきたいと思います。

「書くこと」の領域では、県・市の平均通過率を大きく上回っていました。必要な事柄を収集・選択して書いたり、段落を意識し考えを明確にして書いたりすることができていました。5年生になって毎週金曜日の朝国語において、新聞記事を読み、200字で意見文を書く練習を重ねています。回を重ねるごとに、記事の要点を素早く読み取り、根拠を示しながら意見を書くことができるようになっていきます。今後も継続して指導していきたいと思います。

「言語事項」の領域では、前学年までの漢字・ローマ字・国語辞典の引き方について、高い通過率でした。日頃から辞書を活用していることの成果の表れだと思います。今後も辞書を活用することで、語いを増やし、漢字が使いこなせるよう、指導を続けていきたいと思います。また、主語・述語の関係も通過率が低かったので、読んだり書いたりする学習の中でも、主述の関係を意識させる指導を続けたいと思います。

算数について

本校は、教科全体、また4領域とも、県や市の平均通過率を大きく上回っていました。「数と計算」領域では、帯学習（千田タイム）の成果が表れ、わり算や、小数・分数の計算に関しても県の平均を上回り、基本的な計算力は高まってきているといえます。しかし、かさや面積の単位については、量の感覚がまだ十分身につけていない児童が見られました。「給食の牛乳のかさは？」など生活の中で量の感覚を養っていききたいと思います。また、「数量関係」領域の、伴って変わる2つの数量の関係を式で表す問題は、平均は上回っているものの、やや通過率が低く、論理的に考えを進めていく力を育てていく必要があると思います。

今後は、児童の考えを引き出し活かす授業や、具体的な操作活動を通して筋道立てて考えていく力を育てる授業をさらに充実させていきたいと思います。また、これからも帯学習を計画的に行い、計算技能のさらなる習熟を図っていききたいと思っています。

生活と学習に関する意識、実態について

内容	広島市 (%)	千田小 (%)
寝る時刻がだいたい決まっている	80.8	77.5
家で本や資料などを利用して学習している	56.6	58.2
学校の授業の復習をするようにしている	57.6	54.0
自分で勉強の計画を立てている	60.4	60.7
違う意見を受け入れながら、自分の考えを話す	71.6	69.7
問題を解決するために、自分の気持ちを言葉で伝える	69.0	65.2

朝食や起床・就寝時刻など、生活習慣の定着状況については、本校で行っている「いきいき生活調べ」の結果でお知らせしている通りですが、朝食を食べない児童や、就寝時刻が定まらず睡眠時間が短い児童が増えてきています。集中して意欲的に学習に取り組むためにも、十分な睡眠時間を確保し、体調を管理することが望まれます。

読書活動については、家庭で読書に費やす時間が少ないようです。「家で本や資料などを利用して学習する」と回答した児童は、市平均を上回っていますが、6割弱にとどまっています。読書活動が充実するよう、朝読書や読書週間、読み聞かせボランティアの方のご協力など、学校では読書に親しむ習慣を身につけていきたいと考えています。

学習については、「学校の授業の復習をするようにしている」「自分で勉強の計画を立てている」と答えた児童は、5割から6割程度でした。平日の家庭学習の時間が少ないことや、「『やりなさい』と言われるから勉強している」と約3割の児童が答えていることから分かるように、指示に従って、与えられた課題をこなしている児童が多いと考えられます。自主的に学習に取り組む習慣をさらに徹底していく必要があると思われます。

表現力については、「自分と違う意見も受け入れながら、自分の考えを話す」「困ったときや腹が立ったときなど、解決のために相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝える」ことができる児童は6割から7割程度で、コミュニケーション能力は高いとは言えないようです。自分の思いが自分の言葉で自由に表現できる学級・学年の雰囲気作りや、相手を思いやること、自分に自信を持たせることなどについて助言をしていきたいと思えます。

今後の取り組みとして、児童の実態を把握し、児童がお互いにかかわり合える授業作りを目指し、学年で研究を進めていきたいと思えます。また、学習に対する姿勢や準備をしっかり整え、学習規律や学習習慣を身につけるよう、取り組んでいきたいと思えます。学年が上がるにつれて友達とのかかわり方が複雑になってきます。よりよい集団作りができるように、問題があったときには、自分自身で振り返ったり話し合ったりする時間を確保したいと思えます。

児童が、自分に自信をもち、何事にも意欲的に取り組んでいくことができるよう、保護者の皆様と連携をしていきたいと思えます。